

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 菅沢町の史跡を訪ねる

講師 久保 征四郎

(東植田コミュニティ協議会 文化部長)

平成27年3月15日(日)

共催 高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

1 菅沢町について

阿讃山脈の中腹に位置する菅沢町は、周囲を小さな山に囲まれた盆地にあります。そこは浅い谷川が流れて食べ物や水も確保できる、生活しやすい環境だったので古くから人が住んで、小さな集落を形成していたようです。

菅沢という地名は、菅というのは「すげのかや」のことで、沢というのは、沼地のことです。昔この一帯は沼地が相当あったらしく、その沼に「すげのかや」が生えていました。それを菅笠に編んだり、上敷に織って敷物として使っていたようです。そんなことから菅沢と呼ばれるようになりました。



2 菅沢町八十八ヶ所霊場について

開基は慶応二年（一八六六）で、今から百四十九年前にお祀りされたと伝えられています。発起人は地元の菅沢勝五郎、熊野甚平、熊野清三郎などで、近隣の志ある人にお願ひして霊場を建立したとされています。

石仏は薬師山を一回りして、最後に表参道に沿って祀られ、頂上の薬師堂に最も近い所に結願の寺、第八十八番医王山大窪寺が祀られています。

大窪寺の本尊は薬師如来で、左手に薬壺の代わりにほらが法螺貝いを持っており、その法螺貝で厄難諸病を吹き払うと言われています。

大窪寺は、早くから女性の入山が許され、女人高野とも呼ばれていました。



3 菅沢町の薬師堂について

堂宇は薬師山に鎮座しています。ご本尊は薬師如来ですが、阿弥陀如来と弘法大師像も一緒に祀られています。

戦国時代に土佐の長宗我部元親は、ちようそかべもとちか四国を統一しようとして天正十年（一

五八二）に香川親和（元親の次男）を擁して二万余の大軍で十河城を攻め、

その余力で津柳、内場、岩部、朝倉、植田城などを次々に落城させました。

この戦いで多くの寺社、寺院は焼失しました。この菅沢の薬師堂も土佐軍によって焼かれました。この時、住民は大切なお薬師さんを焼かれてはと思い、畑の中に埋めてお守りしました。やがて天正十三年（一五八五）三月、



豊臣秀吉の四国征伐で長宗我部元親は降伏しました。

世の中は平和になり、住民も元の平穏な暮らしができるようになりました。この頃、薬師山の山麓の田畑で夜な夜な美女が現れてつきまとうようになり、住民は気味悪くなつて恐れていました。

ある夜、村人が田の水を引くため通つた時美女が現れたので、狸かキツネの化け物かと思ひ蹴で打ちのめしました。すると「ガーン」という大きな音がして、そこには美女の姿はなく薬師如来の石像がありました。それから毎夜、怪しい火の玉のような光が出るようになりました。

これは薬師如来様の祟りだと住民は話し合つて、薬師山に堂宇を建て安置しました。すると、それからは元の平和な山里になったそうです。

薬師如来の膝のあたりのある傷は、その時のものと言われています。

（このお話は菅沢町に残っている有名な昔話として語り継がれています。）



薬師堂の薬師如来

4 八十八ヶ所霊場の施主について

菅沢町の写し霊場で注目されるのは、石仏を建てた人が広範囲に広がっているということです。千葉幸伸先生の調査によりますと、北は岡山県から南は徳島県にまたがり、香川県内でも遠く塩飽諸島しわくしよとうの方の名前が刻まれています。

それらをまとめてみますと次のようになります。

① 備州瑜伽山びしゅうゆかざん

瑜伽山は岡山県の児島にあり、大阪方面から金毘羅参りをする人が必ず立ち寄った霊場です。十二番の焼山寺の石仏に瑜伽山の僧の名前が刻まれています。児島地方は綿織物業が盛んで菅沢との交流があつたのかもしれない。

② 塩飽広島

四十一番龍光寺の石仏に塩飽広島之最勝院の名前が刻まれています。「為菩提」とありますから、父母の菩提の為に建てたのでしょう。

③ 豊島家浦

四十八番西林寺の石仏に豊島家浦の「宇吉」なる石工の名前が刻まれています。

④ 徳島県

吉野川に面した高越山の麓からたくさんの方が出ています。九番法輪寺、三十七

番岩本寺、五十四番延命寺、五十六番泰山寺、五十九番国分寺、七十七番道隆寺の石仏に名前が刻まれています。

⑤ 徳島祖谷

七十九番高照院の石仏には、祖谷山集福寺の名前が刻まれています。菅沢の人が塩飽の海や祖谷の山とどんな関係を結んでいたのでしょうか。

⑥ 香川県内で菅沢以外

二十九番国分寺の石仏には林村、五十七番栄福寺の石仏には石田村、一番霊山寺、四番大日寺には三木町奥山村、また六番安楽寺、四十三番明石寺、七十五番善通寺、八十八番大窪寺には三木町小箕村の人の名前が刻まれています。

⑦ 近くの村からの石仏

十九番立江寺、八十三番一宮寺、八十四番屋島寺の石仏には川内原村の竹添清五郎の名前が刻まれています。

十八番恩山寺、四十番観自在寺、六十一番香園寺の石仏には東谷の、十四番常楽寺、十七番井戸寺の石仏には下谷の人の名前が刻まれています。

二十一番太龍寺の石仏には岩部の、十三番大日寺、二十八番大日寺、四十四番大寶寺、五十五番南光坊、七十六番金倉寺の石仏には安原村小田の、四十九番浄土寺の石

仏には安原村生山の人の名前が刻まれています。

⑧ 菅沢の人達による建立

三十番善樂寺、三十一番竹林寺には菅沢の人の名前が刻まれています。二十五番津照寺、四十五番岩屋寺の石仏には菅沢氏の名前があります。これらの人たちは、おそらく遠くの方にも出かけて行って造立を勧めたのではないのでしょうか。しかし、そのほとんどが村以外の人たちの造立だということがわかり、ご苦労の程が偲ばれます。

⑨ 女性による造立

県内各地の写し霊場で、女の人が施主になっている例は多く見られます。菅沢でも例外ではありません。解るだけでも全部で十六体あります。

その中でも熊野百次良の奥様は、自分自身が六十六番と六十八番、六十九番の三体を建てているほか、娘二人にも七十番と七十四番を建てていることがわかります。

これは女性の信仰心の厚さと見ていいのではないのでしょうか。また、女性が家事などで忙しく、本物の四国八十八ヶ所霊場巡りの旅に出にくかったという事情もあると思います。

5 十九番立江寺について

たつえじ

県内の写し霊場でも見られることですが、十九番立江寺は特別篤く祀られています。菅沢でも専用の堂が建てられ、中に丁寧に安置されています。立江寺の本尊が地藏菩薩であり、延命地藏と考えられていたことと、明治三十九年（一九〇六）頃より立江地藏に参拝すれば、諸病難病が全治するという話が広がって参詣者が盛んになり、明治四十年（一九〇七）四月、熊野慶蔵、熊野条蔵が小さな堂宇を建立しました。九月には菅沢安五郎、熊野条蔵、熊野熊三郎が発起人となり二間半と二間の通夜堂を建立し、毎月十日と二十三日



立江寺の堂宇

を縁日として信者は通夜しました。往時は大きな芝居小屋もあり賑わっていたそうです。

6 生駒高俊公より拝領の馬具について

いこまたかし

せんごくごんべえひでひさ

菅沢官兵衛義長は、豊臣秀吉の家臣仙石権兵衛秀久に仕えていました。その後、高松藩四代目藩主生駒高俊公に仕えて禄高三百六十石を与えられました。義長の長子、菅沢甚兵衛義茂は父親の家禄を継ぎ、藩主生駒高俊公の弓術師範として仕えていました。

寛永十五年（一六三八）正月、生駒高俊公は江戸家老前野助左衛門を連れて高松へ帰国しました。正月十五日に義茂は呼び出され、藩主より平素の忠勤に対して禄を百石加増され馬まで拝領しました。



拝領の鞍



拝領の鞍

その後、藩主生駒家は生駒騒動により讃岐の土地と城は召し上げられ、出羽の国矢島に一万石で国替えになり没落しました。菅沢甚兵衛義茂も禄高を失い浪人の身となってしまいました。藩主より拝領の馬具は、菅沢熊野神社の宝物として三百七十年間大切に保管されています。

なお、拝領の馬は死亡して「大石」という地名の付近に埋められて、自然石の墓を建てたと伝えられています。

7 熊野神社について

菅沢町の氏神様である熊野神社は、菅沢熊野氏の元祖、十四世菅沢主水存常が武運長久、五穀豊穰を祈って六百年も昔に紀州熊野から熊野三所権現をお迎えして祀り始めたものといわれています。その時一緒に持って帰った赤檜アカガシの木が境内で大木に育っています。

由緒記によると、貞治五年（一三六六）八月九日の創祀にして菅沢の産土神です。



菅沢甚兵衛義茂が生駒藩高俊公より拝領した馬の墓

天正年中（一五七三〜九二）兵火にかかり炎上しましたが、寛永三年（一六二六）九月に再建しました。その後、寛文七年（一六六七）、天和四年（一六八四）、元禄三年（一六九〇）と修営を行い、明治八年（一八七五）五月本殿屋根葺き替えをしました。

昭和三年（一九二八）十一月本殿を改築し、同時に幣殿上拝殿を修理した、とあります。その後も菅沢家から熊野家に引き継がれて大切に守ってきました。

現在は第二十五代神主として、熊野正様がお世話をされています。



熊野神社

8 賤ヶ岳七本槍の絵馬について

しずがたけ

熊野神社の拝殿に明治十一年（一八七八）

三月吉日と記した、賤ヶ岳七本槍の勇将たちの絵馬が、武運長久、五穀豊穡と村民の無病息災延命を祈願して奉納されています。

現在は絵馬の色が落ち、赤黒くなって人物がはっきりせずよくわかりませんが、ある画家の話では「画家の名前が消えてよくわからないが、この絵馬は立派な作品です」と言っておられました。

絵馬の絵は画家が屏風絵を見てこれを参考に描いたものと思われます。

この絵馬とよく似た絵馬が、岐阜市立博物館、滋賀県の長浜城歴史博物館と大阪城天守閣にもあります。



9 耳塚について

豊臣秀吉は、天正十三年（一五

八五）九州豊後の大友義統おおともよしむねに筑前

など四ヶ国を守らせていましたが、

しまづよしひさ

島津義久が薩摩で兵を挙げて、豊

後筑前を攻撃して来ました。豊臣

秀吉は、四国の諸将に対し大友義

統に加勢するよう命を下しました。

そごうまさやす

十河城主の十河存保は、五百余人

の兵を率いて豊後府内に向かつて

進軍しました。十河軍には菅沢内

膳義景、友成父子もあり、他に仙

石権兵衛久秀、長宗我部元親、盛

親父子も参戦しました。

十河軍は力を合わせて島津義久

の大軍を戸次川の川向うへ敗退さ



せました。ここで退却すれば良かったのに、仙石権兵衛久秀は全軍に追撃を命じました。この作戦が拙くことごとく大敗してしまいました。

この戦いで讃岐の将兵は殆ど討ち死にし、十河存保や菅沢義景も戦死しました。この時、菅沢義景の長子義長は素早く父親の髪と両耳を小刀で切り落とし、戦場から持ち帰り、父親の供養として菅沢熊野神社の境内に耳などを埋めて塚を建立しました。これを人々は「耳塚」と呼ぶようになりました。

【参考文献】

- | | |
|---------------|--------------------|
| 東植田村史 | 飯間 亀太郎 著 |
| 山田町史 | 山田町史編集委員会 |
| 高千穂神々の里 | 青井 瑞穂 著 |
| 讃岐のやまなみ | 第六号、七号 香川県歴史研究会 |
| 菅沢の八十八ヶ所石仏めぐり | 多田 豊美 著 |
| 里山めぐり | 東植田コミュニティ協議会 文化部発行 |



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 三谷石舟古墳周辺を歩く
とき 平成27年4月19日（日）

9：30～12：00頃

集合場所 未定（広報たかまつでご確認ください）

講師 山本 英之 さん（高松市文化財専門員）

☆広報「たかまつ」4月1日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課（TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★-----

◆ことடன்バス

＜レインボー・サンメッセ 川島・フジグラン十川行き＞

（高松駅） （瓦町バス停） （川島バス停）

8：15 発 → 8：25 発 → 8：56 着

＜サンメッセ・西植田行き＞

（高松駅） （瓦町バス停） （川島バス停）

8：39 発 → 8：49 発 → 9：17 着



A cartoon illustration of a mole with a pink nose and a small tuft of hair, emerging from a green patch of ground. It is looking up at two yellow stick figures with smiling faces and X's on their heads. The background is white with several colored circles (blue, yellow, pink) floating around.

※ 参加中は、次のことに充分留意し、安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。

